

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	2022年4月28日
【四半期会計期間】	第50期第2四半期（自 2021年12月21日 至 2022年3月20日）
【会社名】	前田工織株式会社
【英訳名】	MAEDA KOSEN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 前田 尚宏
【本店の所在の場所】	福井県坂井市春江町沖布目第38号3番地
【電話番号】	0776-51-3535
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 斉藤 康雄
【最寄りの連絡場所】	福井県坂井市春江町沖布目第38号3番地
【電話番号】	0776-51-3535
【事務連絡者氏名】	取締役 常務執行役員 斉藤 康雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第2四半期 連結累計期間	第50期 第2四半期 連結累計期間	第49期
会計期間	自 2020年9月21日 至 2021年3月20日	自 2021年9月21日 至 2022年3月20日	自 2020年9月21日 至 2021年9月20日
売上高 (百万円)	21,678	23,315	43,236
経常利益 (百万円)	3,145	2,934	6,378
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,118	2,442	4,594
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	2,241	2,704	4,820
純資産額 (百万円)	35,552	40,150	37,783
総資産額 (百万円)	60,673	67,005	64,267
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	67.28	77.48	145.85
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	60.16	69.31	130.44
自己資本比率 (%)	58.5	59.8	58.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,409	1,942	6,818
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,161	941	4,347
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	594	114	440
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	12,662	14,239	13,089

回次	第49期 第2四半期 連結会計期間	第50期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年12月21日 至 2021年3月20日	自 2021年12月21日 至 2022年3月20日
1株当たり四半期純利益 (円)	40.00	39.12

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
- 2021年12月16日開催の第49期定時株主総会において、事業年度の変更に係る定款変更議案が決議されたことに伴い、第50期連結会計年度より決算期が9月20日から6月30日に変更となります。なお、連結子会社につきましても、決算期を6月30日に統一いたします。決算期変更の経過期間となる第50期連結会計年度につきましては、2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間となります。

## 2【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、2022年3月20日現在、当社（前田工織株式会社）及び連結子会社9社により構成されております。

当第2四半期連結累計期間における、各セグメントに係る主な事業内容の変更と主要な関係会社の異動は、次のとおりであります。

### <ソーシャルインフラ事業>

第1四半期連結会計期間より、子会社化した株式会社セブンケミカルをソーシャルインフラ事業に加えております。

また、当社グループの既存子会社である未来のアグリ株式会社は、2021年9月21日付で当社の連結子会社でありましたエスケー電気工業株式会社を吸収合併いたしました。

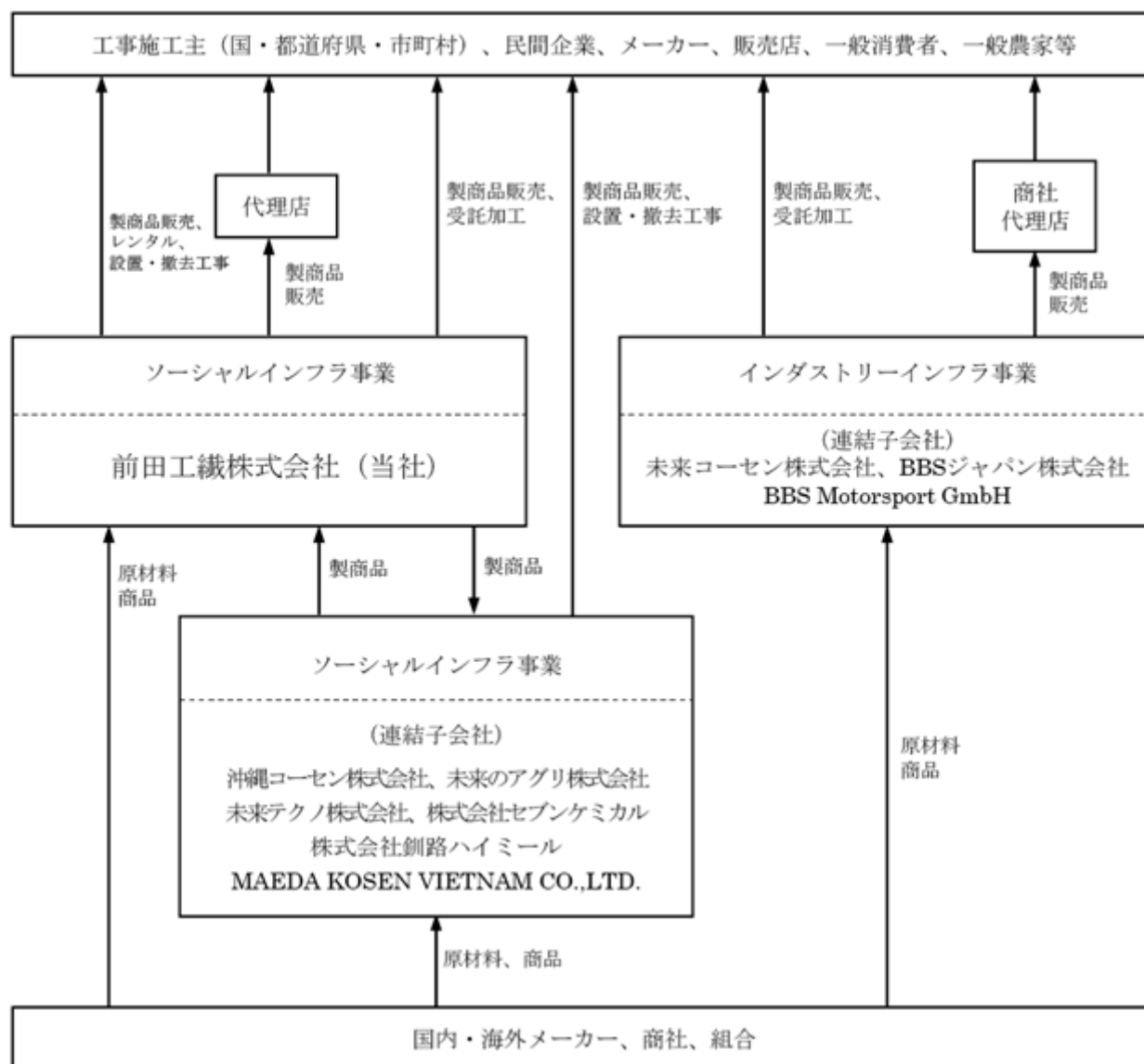
### <インダストリーインフラ事業>

主要な事業内容及び主要な関係会社の異動はありません。

### <ヒューマンインフラ事業>

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったMDKメディカル株式会社の全株式等を譲渡したことに伴い、連結の範囲から除いております。

事業系統図は次のとおりであります。



## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化するなか、ワクチン接種の進展により、内需の柱である個人消費が回復するなど、景況感に持ち直しの動きが見られましたが、昨年末以降は、新たな変異株の発生によって感染が再拡大し、サプライチェーン寸断による経済活動の停滞が見られるほか、ロシア・ウクライナ情勢による資源価格のさらなる高騰や為替変動など、国内景気は不安定な状態が続いております。

このような状況のなか、当社グループでは、2018年の創業100周年を機に、企業メッセージ「前田工織は混ぜる会社です」を掲げております。このメッセージには、当社グループが持続的成長を遂げるための強い思いを込めており、グループの持つあらゆる経営資源を「混ぜる」ことで、成長戦略である「M & A」、「海外事業」、「人材育成」を積極的に推進するための原動力になると考えております。

M & A戦略においては、当社グループがこれまで培ってきた繊維・樹脂の加工技術に捉われず、異分野がもつ様々な技術やノウハウを「混ぜる」ことで、新製品や新技術を創出してまいります。

海外事業においては、海外の生産拠点を拡充するとともに、外国籍企業との業務提携等を通じて国内外の技術や販売ネットワークを活用することで、当社グループ製品の市場拡大を目指してまいります。

人材育成においては、当社グループ社員全員を戦力化するほか、多様な人材を採用・育成し、それらの能力・経験から生まれる人的資源を「混ぜる」ことで、イノベティブな組織風土を築いてまいります。また、当社グループでは、「従業員の健康が会社の未来を決める」との考え方のもと、すべての従業員の健康に深く関わっていくことを決意し、「健康宣言」を行っております。今後も健康で働きがいのある職場づくりに向けた様々な施策に取り組んでまいります。

このように、当社グループは、モノづくりを通じて、「私たちは 独自の知恵と技術で 持続可能な地球 そして安心・安全で豊かな社会を創るために 貢献してまいります。」という経営理念を実践し、さらに世の中から必要とされる企業となるよう努力してまいります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は23,315百万円（前年同期比7.5%増）となりました。利益面におきましては、営業利益は3,022百万円（同2.9%減）、経常利益は2,934百万円（同6.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,442百万円（同15.3%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (ソーシャルインフラ事業)

当社の公共工事業においては、盛土補強材の販売が伸び悩んだものの、景観資材、海洋土木品、斜面環境製品等の販売が堅調に推移したことから、売上は前年同期を上回りました。営業利益は、原材料価格の高騰に伴う粗利率の低下により、前年同期を下回る結果となりました。不織布関連の製品は、スパンボンド（連続長繊維不織布）の産業資材・自動車資材向け販売が半導体不足等により減少したものの、新型コロナウイルス感染症対策における医療・衛生資材の受注が堅調に推移した結果、売上・利益とも前年同期を上回りました。

獣害対策製品、園芸用ハウス、農業資材を取り扱う子会社の未来のアグリ株式会社においては、獣害畜産関係の販売が伸び悩んだものの、園芸用ハウスの受注回復により、売上・利益とも前年同期を上回る結果となりました。また、天幕や帆布生地製品を取り扱う子会社の未来テクノ株式会社では、防衛省向け製品の受注が低迷したものの、一部大型案件の受注や海洋土木製品の販売拡大が奏功し、製造原価・販管費の削減効果もあったことから、売上・利益とも前年同期を大幅に上回る結果となりました。海外子会社であるMAEDA KOSEN VIETNAM CO., LTD.においては、原材料価格の高騰が利益を押し下げる要因となりましたが、取扱製品の拡充により、売上は計画に対して順調に推移しております。

当事業の売上高は15,602百万円（前年同期比5.9%増）、営業利益は3,001百万円（同7.8%減）となりました。

(インダストリーインフラ事業)

インダストリーインフラ事業では、精密機器製造用ワイピングクロス、衣料・各種産業資材用の丸編製品を製造・加工・販売する子会社の未来コーセン株式会社において、半導体市況の回復や精密機器製造向け製品の受注確保により、主力のワイピングクロスの売上が順調に推移した結果、売上・利益とも前年同期を上回る結果となりました。

自動車ホイール事業では、アルミ鍛造ホイールを製造・販売する子会社のBBSジャパン株式会社において、国内外のアフター市場向け製品が好調に推移したほか、同社のドイツ子会社BBS Motorsport GmbHの業績が伸長した結果、売上は前年同期を上回る結果となりました。営業利益は、運賃等の販管費が増加したことで、前年同期を下回る結果となりました。なお、BBSジャパン株式会社は、自動車レースの最高峰であるFormula 1®にて、2022年シーズンから4年間、F1ホイールを独占供給することになりました。また、北米におけるトップカテゴリーレースのNASCAR®においても3年間、独占供給いたします。同社はF1用マグネシウム鍛造ホイールを世界で初めて開発しており、これまでのF1ホイールの提供実績や、技術開発力などが評価された結果、今回の契約締結に至りました。今後も「BBS」ブランドロイヤルティの向上を図りながら、高級・高品質・個性化の需要を取り込むことで、売上拡大を図ってまいります。

当事業の売上高は7,712百万円(前年同期比11.1%増)、営業利益は607百万円(同12.2%増)となりました。

(ヒューマンインフラ事業)

ヒューマンインフラ事業では、子会社のMDKメディカル株式会社が医療機器の治験にかかる費用を計上したことで、営業損失は107百万円(前年同期は営業損失202百万円)となりました。なお、当第2四半期連結会計期間において、MDKメディカル株式会社の全株式等を譲渡したため、第1四半期連結累計期間までの損益計算書のみ連結しております。

財政状態

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,738百万円増加し67,005百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末と比べて2,987百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が1,149百万円、原材料及び貯蔵品が840百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末と比べて249百万円減少いたしました。これは主に、有形固定資産が294百万円増加したものの、投資その他の資産が506百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ371百万円増加し26,854百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末と比べて161百万円増加いたしました。これは主に、未払法人税等が688百万円減少したものの、電子記録債務が970百万円、短期借入金が408百万円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末と比べて210百万円増加いたしました。これは主に、リース債務が209百万円減少したものの、長期借入金が368百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2,366百万円増加し40,150百万円となりました。これは主に、利益剰余金が2,032百万円増加したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1,149百万円増加（前期末比8.8%増）し、14,239百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られたキャッシュ・フローは1,942百万円（前年同期は3,409百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益3,226百万円、減価償却費1,418百万円、仕入債務の増加額1,089百万円等の収入と、法人税等の支払額1,395百万円、棚卸資産の増加額1,274百万円等の支出によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用したキャッシュ・フローは941百万円（前年同期は1,161百万円の支出）となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得236百万円等の収入と、有形固定資産の取得1,301百万円等の支出によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られたキャッシュ・フローは114百万円（前年同期は594百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入れ445百万円、短期借入金の純増加額408百万円等の収入と、配当金の支払額409百万円等の支出によるものであります。

(3) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、338百万円であります。また、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったMDKメディカル株式会社の全株式等を譲渡したことに伴い、連結の範囲から除いており、第1四半期連結累計期間までの損益計算書のみ連結しております。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの資本の財源及び資金の流動性について重要な変更はありません。

(6) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

### 3【経営上の重要な契約等】

当社は、2022年2月2日開催の取締役会において、当社が保有する連結子会社MDKメディカル株式会社（以下「MDKメディカル」）の全株式等をM.A. Med Alliance SA（以下「Med Alliance社」）に譲渡することを決議し、同日付で同社との間で株式譲渡契約を締結いたしました。

#### 1．株式譲渡の理由

MDKメディカルは、2019年6月28日付でMed Alliance社との間でMed Alliance社が開発する末梢動脈疾患治療用の薬剤溶出バルーンを日本市場で独占的に販売する契約を締結しました。2020年7月からは浅大腿動脈等を対象とした治験を開始し、2021年9月には治験患者の組入が完了しました。一方で、MDKメディカルでは、現在治験中の浅大腿動脈等に加え、膝下動脈の疾患について新たに治験を行うことをMed Alliance社と協議してまいりましたが、今般、Med Alliance社からMDKメディカルを買収したいとの申し出がありました。

当社は、Med Alliance社が他の疾患を含めて日本で治験を実施することが、日本の患者様に新たな治療の選択肢を早期に提供できることとなり、Med Alliance社の企業価値の最大化に資するとともに、Med Alliance社の株主である当社にとっても有効と判断したため、MDKメディカルの全株式等をMed Alliance社に譲渡することといたしました。

なお、当社グループとしましては、報告セグメント「ヒューマンインフラ事業」における子会社株式譲渡に伴い、今後は主力である「ソーシャルインフラ事業」及び「インダストリーインフラ事業」における営業体制の強化や生産設備能力の増強、M & Aの実践に注力し、企業価値向上を図ってまいります。

#### 2．譲渡する相手先の名称

M.A. Med Alliance SA

#### 3．株式譲渡日

2022年3月18日

#### 4．当該子会社の名称、事業内容及び当社との取引関係

- |              |                |
|--------------|----------------|
| (1) 名称       | MDKメディカル株式会社   |
| (2) 事業内容     | 医療機器の開発・製造・販売  |
| (3) 当社との取引関係 | 特記すべき事項はありません。 |

#### 5．譲渡する株式の数及び譲渡後の持分比率

- |               |              |
|---------------|--------------|
| (1) 譲渡前の所有株式数 | 1,000株（100％） |
| (2) 譲渡株式数     | 1,000株       |
| (3) 譲渡後の所有株式数 | 0株（0％）       |

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	77,500,000
計	77,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (2022年3月20日)	提出日現在発行数(株) (2022年4月28日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	32,260,200	32,260,200	東京証券取引所 市場第一部(第2四半期 会計期間末現在) プライム市場(提出日現 在)	1単元の株式 数は100株であ ります。
計	32,260,200	32,260,200	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年12月21日～ 2022年3月20日	-	32,260,200	-	3,472	-	3,431



(5)【大株主の状況】

2022年3月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
前田 尚宏	東京都港区	3,638,200	11.54
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2-11-3	3,632,100	11.52
京侑株式会社	福井県福井市松本2-30-6	3,425,200	10.86
株式会社日本カストディ銀行	東京都中央区晴海1-8-12	3,159,100	10.02
前田 佳宏	東京都世田谷区	2,219,400	7.04
帝人株式会社	大阪府大阪市北区中之島3-2-4	1,800,000	5.71
前田 博美	福井県福井市	966,911	3.07
前田 征利	福井県福井市	949,911	3.01
公益財団法人前田工織財団 基本財産口	福井県坂井市春江町沖布目38-3	782,778	2.48
株式会社福井銀行	福井県福井市順化1-1-1	750,000	2.38
計	-	21,323,600	67.62

(注) 1. 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は3,632,100株であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分1,250,100株、年金信託設定分230,500株、管理有価証券信託分等2,151,500株となっております。

2. 上記株式会社日本カストディ銀行の所有株式数のうち信託業務に係る株式数は3,159,100株であります。なお、それらの内訳は、投資信託設定分2,964,800株、年金信託設定分100,900株、管理有価証券信託分等93,400株となっております。

( 6 ) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年3月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 726,100	-	1単元の株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 31,527,900	315,279	1単元の株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 6,200	-	-
発行済株式総数	32,260,200	-	-
総株主の議決権	-	315,279	-

【自己株式等】

2022年3月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
前田工織株式会社	福井県坂井市春江町 沖布目第38号3番地	726,100	-	726,100	2.25
計	-	726,100	-	726,100	2.25

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年12月21日から2022年3月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年9月21日から2022年3月20日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清稜監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3. 決算期変更について

当社は、2021年12月16日開催の第49期定時株主総会において、事業年度の変更に関する定款変更議案が決議されたことに伴い、第50期連結会計年度より決算期が9月20日から6月30日に変更となります。決算期変更の経過期間となる第50期連結会計年度につきましては、2021年9月21日から2022年6月30日までの9か月10日間となります。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年3月20日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	13,099	14,249
受取手形及び売掛金	9,411	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	9,197
電子記録債権	3,569	4,089
商品及び製品	3,974	4,098
仕掛品	1,642	2,039
原材料及び貯蔵品	2,674	3,514
その他	315	486
貸倒引当金	3	3
流動資産合計	34,684	37,672
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	11,422	11,596
減価償却累計額	5,255	5,508
建物及び構築物(純額)	6,166	6,087
機械装置及び運搬具	17,203	17,542
減価償却累計額	10,759	11,436
機械装置及び運搬具(純額)	6,444	6,105
土地	4,128	4,432
リース資産	3,478	3,478
減価償却累計額	500	684
リース資産(純額)	2,977	2,793
建設仮勘定	1,646	2,155
その他	3,379	3,593
減価償却累計額	2,816	2,945
その他(純額)	562	647
有形固定資産合計	21,926	22,220
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	102	96
ソフトウェア仮勘定	0	6
商標権	608	583
技術資産	89	70
その他	474	479
無形固定資産合計	1,275	1,237
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	3,983	4,430
関係会社長期貸付金	120	120
繰延税金資産	919	706
その他	1,358	618
投資その他の資産合計	6,381	5,875
固定資産合計	29,582	29,333
資産合計	64,267	67,005

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年9月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年3月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,358	1,636
電子記録債務	2,031	3,002
短期借入金	-	408
1年内返済予定の長期借入金	328	271
未払金	1,726	1,528
リース債務	410	414
未払法人税等	1,492	803
賞与引当金	866	571
設備関係支払手形	64	71
その他	672	403
流動負債合計	8,950	9,111
固定負債		
新株予約権付社債	12,031	12,025
長期借入金	453	822
長期末払金	613	615
リース債務	3,212	3,002
繰延税金負債	38	61
役員退職慰労引当金	34	38
退職給付に係る負債	1,101	1,130
その他	47	47
固定負債合計	17,532	17,742
負債合計	26,483	26,854
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,472	3,472
資本剰余金	3,431	3,452
利益剰余金	32,694	34,727
自己株式	1,846	1,789
株主資本合計	37,752	39,862
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	91	147
為替換算調整勘定	44	68
退職給付に係る調整累計額	0	0
その他の包括利益累計額合計	46	215
新株予約権	78	73
純資産合計	37,783	40,150
負債純資産合計	64,267	67,005

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 9月21日 至 2021年 3月20日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 9月21日 至 2022年 3月20日)
売上高	21,678	23,315
売上原価	13,816	15,586
売上総利益	7,861	7,728
販売費及び一般管理費	4,749	4,706
営業利益	3,112	3,022
営業外収益		
受取利息	0	1
有価証券利息	6	6
受取配当金	0	0
為替差益	10	64
受取保険金	36	12
保険解約返戻金	1	0
補助金収入	30	-
固定資産売却益	0	30
その他	26	23
営業外収益合計	110	138
営業外費用		
支払利息	36	38
固定資産除却損	7	25
補修費用	31	157
その他	2	4
営業外費用合計	77	226
経常利益	3,145	2,934
特別利益		
関係会社株式売却益	-	488
償却債権取立益	-	58
特別利益合計	-	546
特別損失		
投資有価証券評価損	-	254
特別損失合計	-	254
税金等調整前四半期純利益	3,145	3,226
法人税、住民税及び事業税	1,069	688
法人税等調整額	42	96
法人税等合計	1,027	784
四半期純利益	2,118	2,442
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,118	2,442

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)
四半期純利益	2,118	2,442
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	111	238
為替換算調整勘定	9	23
退職給付に係る調整額	2	0
その他の包括利益合計	123	261
四半期包括利益	2,241	2,704
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,241	2,704

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,145	3,226
減価償却費	1,476	1,418
のれん償却額	83	12
株式報酬費用	28	31
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	4	7
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	17	27
賞与引当金の増減額(は減少)	72	311
受取利息及び受取配当金	6	7
支払利息	36	38
為替差損益(は益)	4	30
投資有価証券評価損益(は益)	-	254
関係会社株式売却損益(は益)	-	488
受取保険金	36	12
補助金収入	30	-
保険解約返戻金	1	0
補修費用	31	157
売上債権の増減額(は増加)	1,541	41
棚卸資産の増減額(は増加)	93	1,274
仕入債務の増減額(は減少)	544	1,089
その他	597	604
小計	4,324	3,562
利息及び配当金の受取額	0	1
利息の支払額	36	39
保険金の受取額	23	20
補修費用に伴う支払額	23	206
法人税等の支払額	879	1,395
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,409	1,942
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	40	10
定期預金の払戻による収入	50	10
有形固定資産の取得による支出	943	1,301
有形固定資産の除却による支出	3	4
有形固定資産の売却による収入	0	44
無形固定資産の取得による支出	22	23
補助金の受取額	30	-
投資有価証券の取得による支出	2	2
関係会社株式の取得による支出	50	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	236
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	-	95
保険積立金の積立による支出	4	3
保険積立金の解約による収入	2	1
その他	180	15
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,161	941



(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	64	408
長期借入れによる収入	-	445
長期借入金の返済による支出	135	129
社債の償還による支出	13	-
リース債務の返済による支出	196	201
配当金の支払額	314	409
その他	0	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>594</b>	<b>114</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	34
<b>現金及び現金同等物の増減額（は減少）</b>	<b>1,659</b>	<b>1,149</b>
現金及び現金同等物の期首残高	11,002	13,089
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>12,662</b>	<b>14,239</b>

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、株式の取得により子会社化した株式会社セブンケミカルを連結の範囲に含めております。

前連結会計年度まで連結の範囲に含めておりましたエスケー電気工業株式会社は、2021年9月21日付で当社の連結子会社である未来のアグリ株式会社による吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除いております。

また、当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったMDKメディカル株式会社の全株式等を譲渡したことに伴い、連結の範囲から除いております。なお、第1四半期連結累計期間までの損益計算書のみ連結しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日、以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、一部の国内連結子会社において、従来は工事完成基準を適用していた契約のうち、一定期間にわたり履行義務が充足される契約については、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識する方法に変更しております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日、以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)
荷造運搬費	900百万円	1,089百万円
役員報酬	149百万円	168百万円
給料及び手当	1,007百万円	1,043百万円
賞与引当金繰入額	351百万円	323百万円
退職給付費用	52百万円	47百万円
役員退職慰労引当金繰入額	3百万円	2百万円
減価償却費	117百万円	112百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)
現金及び預金勘定	12,702百万円	14,249百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	40百万円	10百万円
現金及び現金同等物	12,662百万円	14,239百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年11月30日 取締役会	普通株式	314	10.00	2020年9月20日	2020年12月16日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年4月1日 取締役会	普通株式	346	11.00	2021年3月20日	2021年5月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月30日 取締役会	普通株式	409	13.00	2021年9月20日	2021年12月17日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年4月1日 取締役会	普通株式	409	13.00	2022年3月20日	2022年5月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソーシャル インフラ事業	インダストリー インフラ事業	ヒューマン インフラ事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	14,738	6,940	-	21,678	-	21,678
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	6	59	-	65	65	-
計	14,744	6,999	-	21,744	65	21,678
セグメント利益 又は損失( )	3,254	541	202	3,593	480	3,112

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額 480百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソーシャル インフラ事業	インダストリー インフラ事業	ヒューマン インフラ事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	15,602	7,712	-	23,315	-	23,315
外部顧客への 売上高	15,602	7,712	-	23,315	-	23,315
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	6	25	-	32	32	-
計	15,608	7,738	-	23,347	32	23,315
セグメント利益 又は損失( )	3,001	607	107	3,501	478	3,022

(注)1.セグメント利益又は損失( )の調整額 478百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。なお、全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2.セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2.報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であったMDKメディカル株式会社の全株式等を譲渡したことに伴い、連結の範囲から除いております。

この結果、前連結会計年度末に比べ、当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「ヒューマンインフラ事業」において130百万円減少しております。

(企業結合等関係)

(事業分離)

当社は、2022年2月2日開催の取締役会において、当社が保有する連結子会社MDKメディカル株式会社(以下「MDKメディカル」)の全株式等をM.A. Med Alliance SA(以下「Med Alliance社」)に譲渡することを決議し、2022年3月18日付で全株式等を譲渡しております。

1. 事業分離の概要

(1) 分離先企業の名称

M.A. Med Alliance SA

(2) 分離した子会社の名称及び事業の内容

名称 MDKメディカル株式会社  
事業内容 医療機器の開発・製造・販売

(3) 事業分離を行った主な理由

MDKメディカルは、2019年6月28日付でMed Alliance社との間でMed Alliance社が開発する末梢動脈疾患治療用の薬剤溶出バルーンを日本市場で独占的に販売する契約を締結しました。2020年7月からは浅大腿動脈等を対象とした治験を開始し、2021年9月には治験患者の組入が完了しました。一方で、MDKメディカルでは、現在治験中の浅大腿動脈等に加え、膝下動脈の疾患について新たに治験を行うことをMed Alliance社と協議してまいりましたが、今般、Med Alliance社からMDKメディカルを買収したいとの申し出がありました。

当社は、Med Alliance社が他の疾患を含めて日本で治験を実施することが、日本の患者様に新たな治療の選択肢を早期に提供できることとなり、Med Alliance社の企業価値の最大化に資するとともに、Med Alliance社の株主である当社にとっても有効と判断したため、MDKメディカルの全株式をMed Alliance社に譲渡することといたしました。

なお、当社グループとしましては、報告セグメント「ヒューマンインフラ事業」における子会社株式譲渡に伴い、今後は主力である「ソーシャルインフラ事業」及び「インダストリーインフラ事業」における営業体制の強化や生産設備能力の増強、M&Aの実践に注力し、企業価値向上を図ってまいります。

(4) 事業分離日

2022年3月18日(株式譲渡日)  
2021年12月21日(みなし譲渡日)

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

受取対価を現金等の財産のみとする株式譲渡

2. 実施した会計処理の概要

(1) 移転損益の金額

関係会社株式売却益 488百万円

(2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	26百万円
固定資産	2百万円
資産合計	28百万円
流動負債	789百万円
負債合計	789百万円

(3) 会計処理

当該株式の譲渡及び債権(MDKメディカルに対する貸付金743百万円)の譲渡を一体の取引として捉え、これらの連結上の帳簿価額と売却価額との差額を「関係会社株式売却益」として特別利益に計上しております。

3. 分離した事業が含まれていた報告セグメントの名称

ヒューマンインフラ事業

4. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

当第2四半期連結会計期間の期首をみなし譲渡日として事業分離を行っております。このため、第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益は、第1四半期連結累計期間までとなり、当第2四半期連結会計期間における損益は計上されておられません。

	累計期間
売上高	-
営業損失	107百万円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年9月21日 至 2021年3月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月21日 至 2022年3月20日)
(1) 1株当たり四半期純利益	67円28銭	77円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,118	2,442
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,118	2,442
普通株式の期中平均株式数(株)	31,491,943	31,522,224
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	60円16銭	69円31銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益調整額(百万円)	4	4
(うち社債発行差金の償却額 (税額相当額控除後)(百万円))	( 4)	( 4)
普通株式増加数(株)	3,659,052	3,657,088
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株 式で、前連結会計年度末から重要な変動があった ものの概要		

2【その他】

2022年4月1日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....409百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....13円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年5月9日

(注) 2022年3月20日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年4月26日

前田工織株式会社  
取締役会 御中

清稜監査法人  
大阪事務所

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 加賀谷 剛

業務執行社員 公認会計士 岸田 忠郎

業務執行社員 公認会計士 井上 達也

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている前田工織株式会社の2021年9月21日から2022年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年12月21日から2022年3月20日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年9月21日から2022年3月20日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、前田工織株式会社及び連結子会社の2022年3月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。



#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。